

コリント前書

第一章一

ただに我等のみ

神の福音により召されてイエスキリストの使徒となれ  
 るパウロ及び兄弟ソステネ、書をコリントに在る神の教  
 會即ちいづれの処にありても、我らの主童に我らのみふら  
 ず彼らの主なるイエスキリストの名を呼求むる者と共に  
 聖徒とふるべき召を蒙り、キリスト、イエスに在りて潔めら  
 れたる汝らに贈る。願くは我らの父なる神および主イエ  
 スキリストの恩恵と平和と汝らにあらんことを。  
 われ汝らがキリスト、イエスに在りて神より賜はりし  
 恩恵に就きて常に神に感謝す。汝らキリストにありて、諸

聖書改譯原稿用紙

般の事即ち凡ての言と凡ての悟とに富みたればなり。こ  
 れキリストの證、かんぢらの中に堅らせられたるに因る。  
 斯く汝らは凡ての賜物に缺くる所なくして我らの主イエ  
 スキリストの現れ給ふを待てり。彼は汝らを終まで堅う  
 して我らの主イエスキリストの日に責むべき所だからし  
 め給はん。汝らを召して其の子われらの主イエスキリス  
 トの交際に入らしめ給ふ神は眞實なる哉。  
 兄弟よ我らの主イエスキリストの名に頼りて汝らに  
 勸むおの語る所を同じうし、分争する事なく同じ心同じ  
 念にて全くと一にあらべし。あが兄弟よク口工の家の者、汝

らの中に紛争あることを我に知らせたり。即ち汝等おの

れはパウロに屬す我はアポロに我はケパに我はキリス

トと言ふこれあり。キリストは分たる者たらんや、パウ

ロは汝らのために十字架につけられしや、汝らパウロの名

に頼りてバプテスマを受けしや。われは感謝すクリスホ

とがヨスとの外には、我んがらの中の一人にしバプテス

マを施さばりしを。是わが名に頼りて汝らがバプテスマ

を受けしと人の言ふ事おからん為あり。またステパノの

家族にバプテスマを施し、事あり此の外には我バプテス

マを施し、事ありや知らざるあり。そはキリストの我を

聖書改譯原稿用紙

遣し給へるはバプテスマを施させんためならず福音を

宣傳へしめんとしてあり。而して言の智慧をもつてせず是キ

リストの十字架の虚しくあらざらん為あり。

それ十字架の言は亡ぶる者には愚ふれど、救はる、我

らには神の能力あり。録して。

われ智者の智慧を亡し、

とあればあり。智者いづこにか在る、學者いづこにか在る、

この世の論者いづこにか在る、神は世の智慧をして愚ふら

しめ給へるにあらすや。世は己の智慧を恃みて神を知ら

三十字下キ

知者

救贖

三六別行

三 ず(これ神の智慧に通へるふり)この故に神は宣教の愚をし

三 て、信する者を救ふを善しと為給へり。ユダヤ人は徴を請

三 ひ、ギリシア人は智慧を求む。されど我らは十字架に釘け

三 られ給ひしキリストを宣傳ふ。これはユダヤ人に贖とあ

三 り異邦人に愚とふれど、召されたる者にはユダヤ人にも

三 ギリシア人にも神の能力、また神の智慧たるキリストあり。

三 神の愚は人よりも賢く、神の弱は人よりも強ければなり。

三 兄弟よ、召を蒙れる汝らを見よ、肉によれる智慧ある者

三 おほからず、能力ある者おほからず、貴きもの多からず。され

三 ども、神は智慧を賜かしめんとて世の愚なる者を選び、強き

三 者を取かしめんとて弱き者を選び、有る者を亡さんとて

三 世の卑しき者、軽んぜらるる者、即ち無きが如き者を選び給

三 へり。これ神の前に人の誇る事、おほからん為なり。汝らは

三 神に頼りてキリスト、イエスに在り、彼は神に立てられて汝

三 らの智慧と義と聖と贖とに為り給へり。これ誇る者は主

三 に頼りて誇るべしと録されたる如く、おほらん為なり。

聖書改譯原稿用紙

蹟物

第二章

一 兄弟よわれ曩に汝らに到りし時神の證を傳ふるに言  
 二 と智慧との勝れたるを用ひざりき。 イエスキリスト及び  
 三 其の十字架に釘けられ給ひし（事）のほかは、汝らの中うちにありて  
 四 何ををも知るまじと心を定めたればあり。 我われんぢらと偕  
 五 に居りし時に弱く、かつ懼れ、長く戦けり。 わが談話だんわ小宣教せんけう  
 六 も、智慧の美しき言によらずして、御靈と能力との證明によ  
 七 りたり。 これ汝らの信仰の人の智慧によらず、神の能力に  
 八 頼らん為ためなり。 別行然れど我らは成人したる者の中にて智慧  
 九 を語る。此の世の智慧にあらず、又この世の廢らんとす

聖書改譯原稿用紙

七 司たちの智慧にあらず、我らは奥義を解きて神の智慧  
 八 を語る、即ち隠れたる智慧にして神われらの榮光の為ために世  
 九 の創の先より預め定め給ひしものあり。 この世の司には  
 十 之を知る者ものなかりき、もし知らば榮光の主を十字架に釘け  
 十一 かりしことならん。 録して

神のおのれを愛する者ものの為ために備へ給ひし事は、  
 神の心未だ念はざりし所あり、  
 神の心未だ念はざりし所あり、  
 神の心未だ念はざりし所あり、

十 与有るが如し。 然れど我らには神かみ之を御靈によりて現し  
 十一 給へり。 御靈はすべての事を究め、神の深き所まで究むれば

光榮

預め

三下下

ものを

土

かり。それ人の事は己が中にある靈の他に誰か知る人あり。

主

らん、斯の如く神の事は神の御靈の他に知る者なし。我ら

の受けし靈は世の靈にあらず神より出づる靈なり。これ我

主

らに神の賜ひしもの知らんためなり。又われら之を語る

高

に人の智慧の教ふる言を用ひず、御靈の教ふる言を用ふ即

高

ち靈の事に靈の言を當つるなり。性來のまゝある人は神

の御靈の事を受けず、彼には愚ある者と見ゆればなり。また

之を悟ること能はず、御靈の事は靈によりて辨ふべき者な

るが故なり。されど御靈に属する者はすべての事を辨ふ

而して己は人に辨へらるゝ事をなし。誰か主の心を知りて

聖書改譯原稿用紙

主を教ふる者あらんや。されど我らはキリストの心を有て

り。 390

第三章一

兄弟よ、われ靈に屬する者に對する如く汝らに語る事能はず、反つて肉に屬する者即ちキリストに在る幼児に對する如く語り。われ汝らに乳のみ飲ませて堅き食物を與へがらき。汝等そのとき食ふこと能はがりし故あり。今しかば食ふこと能はず、肉に屬する者なればあり。汝らの中に嫉妬と紛争とあるは、これ肉に屬する者にして世の人の如くに歩むならずや。或者はわれパウロに屬すといひ、或者はアポロに屬すと言ふ、これ世の人の如くあるにあらずや。アポロは何者ぞ、パウロは何者ぞ、彼等はおのづかの賜

聖書改譯原稿用紙

ふ所に隨ひ、汝らをして信ぜしめたる役者に過ぎざるあり。我は種、アポロは水灌り、されど育てたるは神なり。されば種も、水灌ぐ者も、數ふに足らず、たゞ尊きは育て給ふ神なり。種も、水灌ぐ者も、歸する所は一なり、各自己が勞に隨ひて其の値を得べし。我らは神と共に働く者あり。汝らは神の畑あり、また神の建物あり。我は神の賜ひたる恵に隨ひて、熟練ある建築師のごとく、基を据えたり、而して他の人その上に家を建つ。何にして建つべきか、おのづか慎みて為すべし。既に置きたる基の他は、誰も据うることを能はず。この基は即ちイエスキ

建造物 種

田

十 九 八 七 六

五 四 三 二 一

新心巧

十二

リストあり。入し此の墓の上に金銀寶石、水草藻を以て

十一

建ておぼ。各人の工は顯るべし。かの日之を明かにせんかの

十

日は火を以て顯れ、その火おのくの工の如何を試すべけれ

九

ばあり。その建つ所の工もし保たば値を得。もし具の

八

工、焼けば得ざるべし。然れど己は火より脱れ出づる如く

七

して救はれん。汝ら知らずや、汝らは神の宮にして神の

六

御靈ふんぢらの中に住み給ふを。人もし神の宮を毀たば

五

神かれを毀ち給はん。それ神の宮は聖せり。汝らも亦かくの

四

如し。誰し自ら欺くを、汝等のうち此世にて自ら贖しと思ふ

聖書改譯原稿用紙

三

者は賢くあらんために愚かる者とあれ。そは此の世の智

二

慧は神の前に愚かれはあり。録して彼は智者をその詭計に

一

よりて捕へ給ふ。また主は智者の念の虚しきを知り給ふ

三

とあるが如し。さらば誰し人を誇とすか、萬の物は汝らか

三

有ふればあり。或はパウロ、或はアポロ、或はケパ、或は世界

三

或は生、或は死、或は現在のもの、或は未来のもの、皆ふんぢら

三

の有あり。汝等はキリストの有、キリストは神のものあり。

第四章一

一 人、亘しく我らをキリストの役者また神の奥義を宰さ  
 二 ぶ家司のごとく思ふべし。さて家司に求むべきは忠實な  
 三 らん事あり。我は汝らに審かれ或は人の審判によりて審  
 四 かるべし。ことを最小き事とし、又みづから己を審かず。我  
 五 る心、ことごとく我を審き給ふ者は主あり。然れば主の來り  
 六 給ふまでは時に先だちて審判す。主は暗にあり隠れたる  
 七 事明かに心の謀計を顯し給はん。その時おの神より其の  
 八 譽を得べし。兄弟よ、おんの爲に此等のことを我とア

明かにし、心

輕りなれは

聖書改譯原稿用紙

九 ホ口との上に當て言へり。これ汝らが録されたる所を踏  
 十 むまじき事を我らの事によりて学び、この人をあげ、彼の人  
 一 を貶して誇らん為あり。汝をして人と異らしむる者  
 二 は誰ぞ。汝の有てる物には何か受けぬ物あるか。もし受けし  
 三 たらば、何ぞ受ぬごとく誇るか。汝ら既に飽き既に富めり  
 四 我らを差措きて王となれり。われ實に汝らが王たらん事を  
 五 頼ぶ。我らも共に王たることを得んが為あり。我おもふ神  
 六 は使徒たる我らを死に定められし者の如く、後の者として  
 七 示し給へり。實に我らは宇宙のもの、即ち御使にも、衆人にも、  
 八 觀物にせられたるあり。我らはキリストのために愚か



訓  
讀  
せ  
ん

われ  
答  
を  
も  
て  
到  
らん  
か

十

る者ものとあり、汝なんぢはキリストキリストに在ありてさ慧とき者ものとあれり、我われら

九

は弱よわく汝なんぢらは強つよし、汝なんぢらは尊たふとく我われらは卑いやし。今いまの時ときに至いたる

八

まで我われらは飢うゑ渴かわきまた裸はだかとあり、また打うたれ、定さだまれるま任まみ

七

家かなく、手てづから働はたらきてらう勞のしし、罵ののし、時ときは祝しめし、責せめらる

六

る時ときは忍しのび、誘そらるま時ときは勸すすめをせせり、我われらは今いまに至いたるま

五

で世よの塵あぐた芥たのごとく、萬よろづの物ものの垢あかのごとくごとせられたり。わが

四

斯かく書しるすは汝なんぢらを恥はかしめんとあらず、我われが愛あいする子こと

三

して戒いめんため為ためあり。汝なんぢ等らにはキリストキリストに於おける守もり役やく一いち萬まん

二

ありとも、父ちちは多おほくあることこととあし。そはキリストキリスト、イいエえスすに在あ

一

りて福ふく音いんにより汝なんぢらを生うみたるは我われたればあり。この故ゆゑ

六

に汝なんぢらに勸すすむ、我われに倣まらず者ものとあらんことことを。之これが為ために主しゆ

五

ありて忠ちゅう實じつある我われが愛あい子こテモテを汝なんぢらに遣つかはせり。彼かれは我われが

四

キリストキリストにありて行おこふところ、即すなはち常つねに各か地ちの教けう會かいに教をふ

三

る所ところを汝なんぢらに思おもひ出ださしむべし。我われが汝なんぢらに到いたる事ことなし

二

として誘ほむ者ものあり。されど主しゆの御み意いたらば速すみかに汝なんぢらに

一

到いたり、誘ほむ者ものにはあらず、その能ちから力をし知らんとす。神かみの國くには

六

言ことばにあらず、能ちから力ちからにあらばあり。汝なんぢら何なにを欲ほするか、我われが

五

もて到いたらんか、愛あいと柔な和わの心こころとをもて到いたらんか。

聖書改譯原稿用紙